



# Annual Report 2010

株式会社iSERVE



# 目次

# Contents



- P3 1. 主要指標
- P5 2. 事業紹介
- P6 3. 事業の概況と事業ごとの指標
- P7 4. 代表取締役から  
ステークホルダーの皆さまへ
- P8 5. 企業理念・事業目標



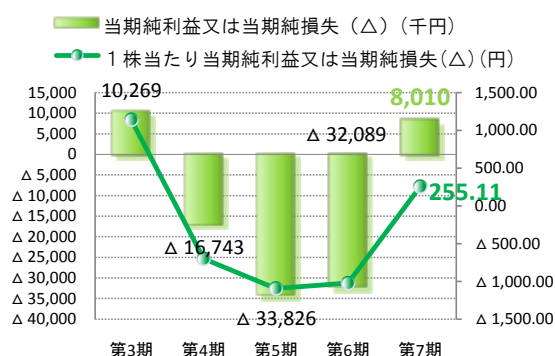
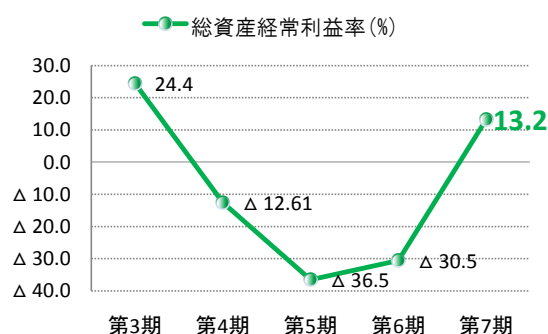
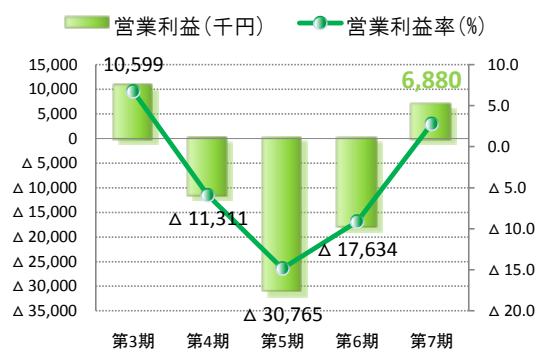
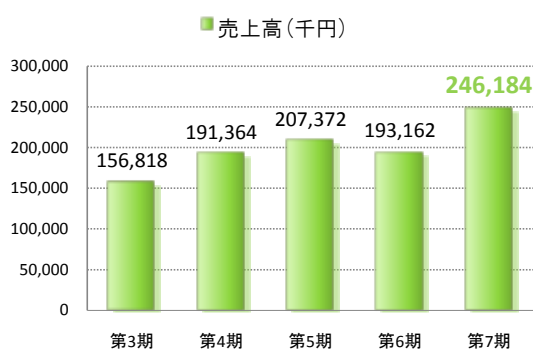
- P8 6. コンプライアンス上の取組み
- P8 7. 社会貢献活動
- P9 8. 従業員の声
- P10 9. 財務の状況
- P16 10. 会社概要・沿革

# 1. 主要指標



## A. 主要指標と分析

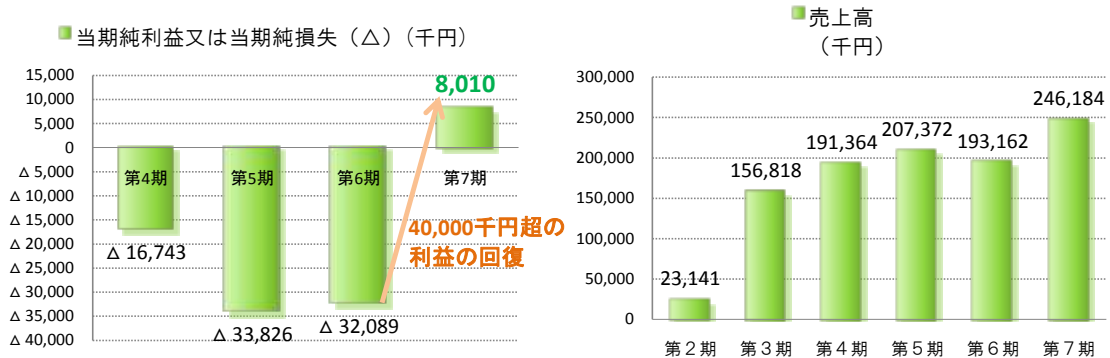
回次	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期
決算年月	平成18年12月期	平成19年12月期	平成20年12月期	平成21年12月期	平成22年12月期
売上高(千円)	156,818	191,364	207,372	193,162	246,184
営業利益(千円)	10,599	△ 11,311	△ 30,765	△ 17,634	6,880
経常利益又は経常損失(△)(千円)	10,339	△ 12,063	△ 32,413	△ 18,871	8,190
当期純利益又は当期純損失(△)(千円)	10,269	△ 16,743	△ 33,826	△ 32,089	8,010
資本金(千円)	9,000	28,200	38,760	38,760	38,760
発行済株式総数(株)	9,000	28,200	31,400	31,400	31,400
純資産額(千円)	3,014	6,010	△ 6,696	△ 38,785	△ 30,775
総資産額(千円)	42,416	95,700	88,734	61,803	62,023
1株当たり純資産額(円)	334.89	193.97	△ 230.46	△ 1,252.42	△ 997.31
1株当たり当期純利益又は当期純損失(△)(円)	1,141.10	△ 699.44	△ 1,094.36	△ 1,021.95	255.11
営業利益率(%)	6.8	△ 5.9	△ 14.8	△ 9.1	2.8
自己資本比率(%)	7.1	5.7	△ 7.5	△ 63.6	△ 49.7
自己資本利益率(%)	—	△ 394.7	—	—	—
総資産経常利益率(%)	24.4	△ 12.61	△ 36.5	△ 30.5	13.2
営業活動によるキャッシュ・フロー(千円)	2,475	△ 11,592	△ 32,770	△ 9,902	3,928
投資活動によるキャッシュ・フロー(千円)	△ 2,571	△ 6,663	△ 16,050	△ 2,110	3,631
財務活動によるキャッシュ・フロー(千円)	2,595	55,672	33,101	6,469	△ 18,794
現金及び現金同等物の期末残高(千円)	9,104	46,519	30,799	25,698	14,535
従業員数(名) 〔ほか、平均臨時雇用者数〕	9(0)	18(3)	15(0)	20(0)	22(2)



## B. 取り組みとその影響

### ① 過去最高の売上高の更新と利益の大幅な改善

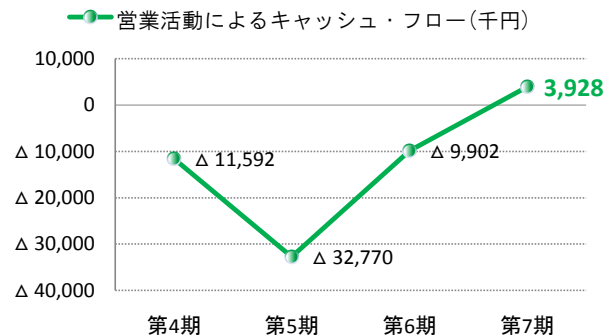
第6期はリーマンショックの影響を受け、売上高は大幅な計画未達となりましたが、第5期、第6期と人材教育への投資を続けたことで、新規案件を受託するに足るコンサルタントを確保することができ、第7期におけるIT投資の回復とともに、売上高を引き上げることができました。



項目\期間	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期
売上高 (千円)	23,141	156,818	191,364	207,372	193,162	246,184

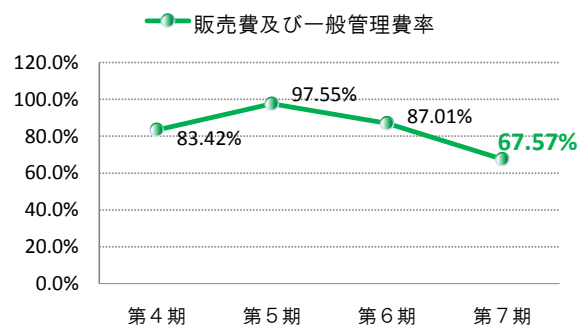
### ② 営業CFの大幅な改善

受注件数が増えるに伴い、コンサルタントの稼働率(1人当たりの売上高)が向上し、その結果、営業CFの改善に至っております。



### ③ 販売費及び一般管理費の削減の取組み

給与の10%カットなどを実施し、固定費を削減したことが、販売管理費の削減の大きな要因となっております。



項目\期間	第4期	第5期	第6期	第7期	備考
販売費及び一般管理費率	83.4%	97.5%	87.0%	67.6%	売上に対する販売費及び一般管理費の割合

### プロフェッショナルサービス事業

IT (Information Technology: 情報技術) 業界では日常的に使われる“プロフェッショナルサービス”という用語。一般の方々には全くなじみのない言葉だと思います。

企業で用いられる情報通信機器やソフトウェアは、高機能化、多機能化が進んでいます。“プロフェッショナルサービス”とは、これら日進月歩のIT関連製品を、ユーザ企業様がスムーズに導入、運用できるように支援するサービスの総称です。

下記は、私たちが提供してきたプロフェッショナルサービスの一例です。

- 災害対策(Disaster Recovery)に関するコンサルティング
- クラウドシステムの企画支援
- 大規模でミッションクリティカルなストレージシステムの設計、構築及び運用
- 仮想サーバの設計、構築と物理サーバから仮想サーバへのサーバ移行
- 大規模NASシステムのデータ移行
- 情報保護の中核となる毎日のバックアップ運用に必要なスクリプト開発
- ストレージシステムの活動状況レポート
- サーバ仮想化に関わるトレーニング



#### 『取り扱い製品』

##### ○Aristel IP-PBX

製造元: Arista Systems Corporation(台湾)  
 提携先: フュージョン・コミュニケーションズ株式会社、  
 プラザー工業株式会社  
 販売先: 当社販売代理店を通じ、ユーザ企業様へ販売  
 いたしております。

##### ○ストレージシステム

製造元: Nexsan Corporation(米国)、Maxtronics International Co., Ltd.(台湾)、EMCジャパン株式会社(本社米国)、デル株式会社(本社米国)/販売先: ユーザ企業

##### ○運用管理ソフト: ManageEngine

製造元: ソーホージャパン株式会社/販売先: ユーザ企業

### ハードウェア・ソフトウェア販売事業

国内外を問わず、顧客の求めるハードウェアやソフトウェアなどのIT関連製品をリサーチし、さらにそれらに付随するサービスを企画・開発し、ユーザ企業様やシステムインテグレータ様へ販売いたしております。

### マーケットリサーチ事業

当事業のお客様は、日本国内のシステムインテグレータおよび海外のメーカーです。私たちは、お客様のご要望に基づいて、国内外のあらゆるIT関連製品の調査、検証を行っております。

- 新しい製品やテクノロジーのリサーチ及び評価
- 日本市場への投入を意識した製品や新しいテクノロジーの評価
- 新しいソリューションの情報発信
- 日本市場におけるマーケットリサーチ



- マーケティング、セールス活動
- パートナー、リセラー開拓
- 日本法人の設立(法人登記、リクルーティング、エグゼクティブサーチなど)
- バイリンガルテクニカルサポート(ヘルプデスク、オンサイトサポートなど)

### ビジネスデベロップメント事業

私たちは、日本市場に新規参入を計画している海外企業(主に米国、中国、台湾、インド)に対して、サービスを提供しています。この活動を通じて、海外の先進的なソリューションが日本で早期に展開できるよう推進役を務めます。

### 教育・出版関連事業

iSERVEでは、各検定試験プロバイダーからの委託を受け、認定テストセンターを運営しております。

- 主な試験プロバイダー
- ピアソンVUE
  - JJS
  - CBTソリューションズ
  - 日商ネット試験
  - プロメトリック(TOEFL試験)



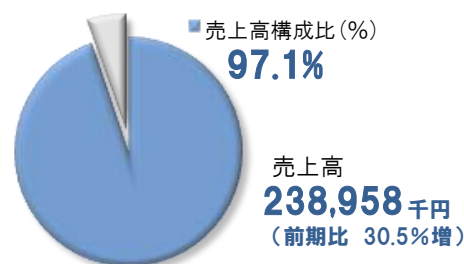
### 3. 事業の概況と事業ごとの指標



セグメント	第7期 平成22年12月期	
	売上高(千円)	売上高構成比(%)
プロフェッショナルサービス事業	238,958	97.1
ハードウェア・ソフトウェア販売事業	5,076	2.1
その他(マーケットリサーチ、ビジネスデベロップメント、教育・出版関連)	2,149	0.9
合計	246,183	100.0

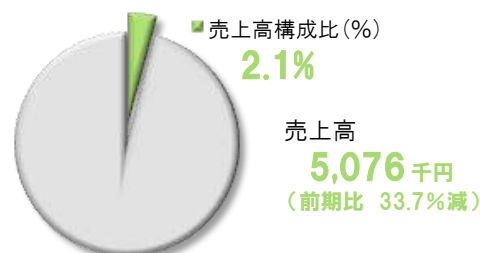
#### プロフェッショナルサービス事業

EMCジャパン株式会社、ネットアップ株式会社、ヴィエムウェア株式会社、シスコシステムズ合同会社、ネットワンシステムズ株式会社など、国内外の一流企業が当社のプロフェッショナルサービスを活用しております。  
当社コンサルタントは、常に最先端テクノロジーの修得に努め、サービスの品質向上に対する努力を惜しみません。その結果、息の長いお取引につながっております。



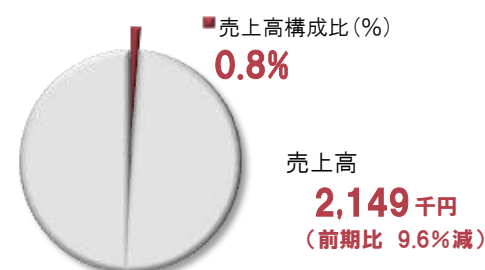
#### ハードウェア・ソフトウェア販売事業

まだまだ小さな売上高ですが、中小企業向けの販売など潜在的な需要は大きく、当社の基幹事業となる可能性を秘めております。  
仮想サーバ、ストレージ、シンククライアントのほか、平成22年10月より中小企業向けのIP-PBX(IPを用いた電話交換機)の輸入販売も始め、さらなる顧客の開拓を進めております。



#### その他(マーケットリサーチ、ビジネスデベロップメント、教育・出版関連)

NEXENTA社(米国)、Arista Systems社(台湾)、Maxtronic社(台湾)、RAIDON社(台湾)など、海外のソフトウェア、ハードウェアメーカーとの提携を進めております。  
認定テストセンターとしては、国家試験であるITパスポート試験の配信センターとして準備を進めており、平成23年11月に配信を開始する予定です。



## 4. 代表取締役から ステークホルダーの皆さまへ

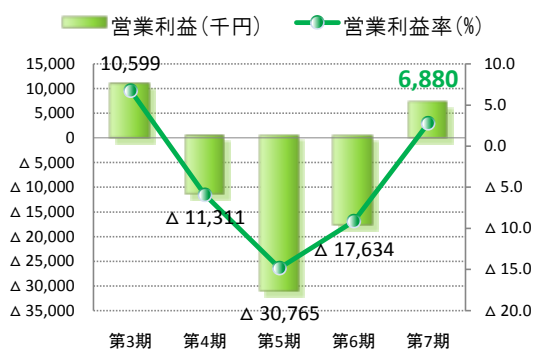


○当社の企業活動について、皆様の質問にお答え致します。

当期の業績についてだけでなく、当社の事業についてや、これからの展望など、皆様に当社の活動と将来的な可能性について深く知って頂きたいと思えます。



代表取締役社長  
齊藤 勲



Q3. 今後の課題と、課題に対する対応方針を教えてください。

- A. A. 当社の売上げの90%以上を上位5社が占めており、今後、顧客の幅を広げ、5社への依存度を下げることが課題として挙げられます。対応方針として、まずは既存顧客との関係をさらに強め、OJTや外部トレーニングによるコンサルタントの養成を図ることとし、具体的には、平成23年度で10名のエンジニアおよびコンサルタントを新たに輩出することを目標とします。重要顧客との関係深化と、人材面の十分な強化という中間目標を達成した段階で、顧客の幅を広げるという次のステップに移行してまいります。

Q5. 中長期的な経営目標を教えてください。

- A. A. 第10期(平成25年12月期)までに5億円、第12期(平成27年12月期)までに10億円を売上目標としております。これには、Q3でも答えた通り、顧客の開拓が必須となります。第8期(平成23年12月期)第3四半期に営業担当の増員を計画しており、営業力の強化を図ります。

Q1. 第7期(平成22年12月期)は増収増益となりましたが、その理由を教えてください。

- A. リーマンショックによる影響から脱し、エンドユーザ企業での情報化投資が再開し始めたことから、当社顧客であるメーカーの製品販売、サービス販売が増えました。この結果、当社へのサービスの発注も増え、増収となりました。また給与カットを含めた経費削減が奏功し、利益の改善につながりました。

Q2. 御社の事業の強みを教えてください。

- A. 当社では、資格取得など、人材への投資を積極的に行い、大規模案件への参加などで個々のスキルアップを図ってきました。現在、多くの業務経験と最新の専門知識、高いコミュニケーション力を持ったコンサルタントが多数在籍しており、これが当社の強みとなっております。

Q4. 次期の業績予想を教えてください。

- A. 第8期(平成23年12月期)の売上目標は、3億4千万円です。



## 5. 企業理念・事業目標

当社は、情報システム基盤における“高い専門性”を持ったプロフェッショナルサービス・プロバイダーとして日本国内におけるリーディングカンパニーを目指しております。



## 6. コンプライアンス上の取組み

### ■ プライバシーマーク取得

iSERVEでは、

- ・個人情報保護法ならびに関連法令を守ること
- ・個人情報を正しく扱うことを望む社会的要請に応えることを実現するために※プライバシーマークを取得しています。

社員、パートナー、アルバイトへの定期的なトレーニングにより、個人情報に対する意識を高め、情報管理体制の定着化を図ることで、より信頼される企業を目指します。

※プライバシーマークとは、第三者機関である財団法人日本情報処理開発協会(JIPDEC)が管理する、個人情報の取り扱いに関する認定制度のことです。

### ■ 適正な会計記録と報告

iSERVEでは、法令その他の規則に従って適正な会計帳簿を作成し、ステークホルダーに対し、その財政状態・経営成績について真実の報告を行います。不正な動機に基づく意図的な粉飾はもちろん、不適切な会計処理は行いません。

### ■ 情報の適時開示

iSERVEでは、透明性のある経営を目指し、ステークホルダーに対して適切な経営情報を発信して、経営に対する理解を得る努力を行うとともに、経営上重大な影響を及ぼすおそれのある事象が判明した場合は、迅速にこれを公表します。

## 7. 社会貢献活動



株式会社iSERVEは社会貢献活動として、アーティストと共にボランティアに取り組む「芸術活動家協会」を支援しております。

「芸術活動家協会」は、当社の社会貢献活動組織を前身としており、“演奏・制作活動の推進を図り、芸術・伝統文化の発展に寄与する”ことを目的としています。

様々な演奏家やアーティストなど、各分野の第一線で活躍する方々とのコラボレーションにより、様々な領域にチャレンジしております。

### 活動内容

#### ボランティア・チャリティ活動

- 若手アーティストへの協力、支援
  - 各種コンサート等の開催
  - 各分野の講座の開催(ボランティア活動を含む)
  - 講師勉強会
  - 講演会
  - イベント
  - コンサルティング
  - 商品開発・提案・企画・販売(チャリティ)他
- 詳細は「NPO法人 芸術活動家協会(申請中)」のホームページをご覧ください。  
NPO法人 芸術活動家協会(申請中)

## 8. 従業員の声



### 従業員A

Q1. iSERVEの魅力は何ですか？

- A. 少数精鋭のプロフェッショナル集団であること、一人一人が向上心を持ち、積極的にスキルアップに取り組んでいること、それでいながら、アットホームで切磋琢磨しているところ、更に、合理的で従来のやり方に固執しないところです。

Q3. iSERVEで何を達成したいですか？

- A. 自分がいなくても成り立つビジネスモデルおよび組織を作ることです。  
目指すは社員100名！売上50億円！！

### 従業員B

Q1. iSERVEと仕事をするときの一番のメリットは？

- A. iSERVEはストレージ業界トップシェアを誇る複数のベンダーで業務を行っているため、常に最新の情報を社内でも共有しています。また、大規模な顧客のクリティカルな運用・構築案件を多数こなしておりますので、そこで得たプロジェクトマネジメント、構成設計、導入作業の幅広いknowledgeを業務に適用することが出来ます。

Q3. これからどんなことに挑戦したいですか？

- A. 今までではストレージ分野の「NAS」という技術に主に関わっておりましたが、今年の4月より「SAN」という技術に関わっております。まず「SAN」という技術に関して理解を深め、今後は「NAS」、「SAN」の仕組みの違いを理解し、よりストレージに関する知識を深めていきたいと考えています。

iSERVEにはどのような魅力があるのでしょうか。  
iSERVEの従業員に密着し、魅力、やりがい、目標などを直接インタビューした様子です。

Q2. 一番仕事のやりがいを感じる時は？

- A. 新しい取り組みを提案し、それを任された時です。直接業務に関係のない提案でも業務へ積極的に関わろうとすれば、応えてくれる土壌があります。その為、既存業務にもやりがいを持って従事する事が出来ます。

Q4. Aさんがお客様と仕事をするときに一番気を付けていることは？

- A. お客様が何を考え、何を実現したいと思っているかを念頭において行動することです。

Q2. iSERVEでの仕事のどんなところが好き？

- A. 様々なIT技術分野の中でも、ストレージ技術を中心に携われることが一番の醍醐味であると思います。ストレージシステムは、そこにネットワーク、サーバ等、様々な装置が接続されてお客様の大切なデータ領域として使用されることとなります。ストレージシステムの観点から幅広くITシステムを見渡せるところに仕事のやりがいを感じています。

Q4. Bさんにとって、お客様と仕事をするとは？

- A. 担当しているお客様のオフィス内で仕事をする事が多いことから、毎日のようにお客様と接しています。そのような環境の中で仕事することでコミュニケーション能力等のスキルを向上させ、お客様に対してより良質のサービスを提供するという形で還元することができればと思います。

## 9. 財務の状況



### ○貸借対照表

科 目	期 別	第6期		第7期	
		(平成21年12月31日現在)		(平成22年12月31日現在)	
		金額(千円)	構成比	金額(千円)	構成比
(資産の部)			%		%
I 流動資産					
1 現金及び預金		25,698		14,535	
2 売掛金		20,673		34,880	
3 商品		—		321	
4 前払費用		1,151		897	
5 立替金		1,169		1,716	
6 未収入金		—		1,524	
7 その他		2		—	
流動資産合計		48,696	78.8	53,875	85.5
II 固定資産					
1 有形固定資産					
-1 建物附属設備		2,990		2,592	
-2 車両		494		311	
-3 工具器具備品		453		226	
有形固定資産合計		3,937	6.4	3,130	5.0
2 無形固定資産					
-1 ソフトウェア		0		—	
無形固定資産合計		0	0	—	0
3 投資その他の資産					
-1 投資有価証券		50		50	
-2 出資金		499		499	
-3 敷金・保証金		3,834		4,095	
-4 長期前払費用		893		1,372	
-5 保険料積立金		3,892		—	
投資その他の資産合計		9,169	14.8	6,017	9.5
固定資産合計		13,107	21.2	9,148	14.5
資産合計		61,803	100.0	63,023	100.0

※記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(貸借対照表続き)

科 目	期 別	第6期		第7期	
		(平成21年12月31日現在)		(平成22年12月31日現在)	
		金額(千円)	構成比	金額(千円)	構成比
(負債の部)			%		%
I 流動負債					
1 短期借入金		5,129		-	
2 買掛金		5,742		12,741	
3 1年以内返済予定長期借入金		20,232		17,256	
4 未払金		7,055		10,496	
5 未払費用		9,163		8,569	
6 未払法人税等		179		179	
7 未払消費税等		1,387		2,288	
8 預り金		667		1,924	
流動負債合計		49,556	80.2	53,455	84.8
II 固定負債					
1 長期借入金		51,033		40,344	
固定負債合計		51,033	82.5	40,344	64.0
負債合計		100,589	162.7	93,799	148.8
(純資産の部)					
I 株主資本					
1 資本金		38,760	62.7	38,760	61.5
2 資本剰余金					
資本準備金		10,560		10,560	
資本剰余金合計		10,560	17.0	10,560	16.8
3 利益剰余金					
-1 その他利益剰余金					
繰越利益剰余金		△88,645		△80,635	
利益剰余金合計		△88,645	△143.4	△80,635	△127.9
株主資本合計		△39,325	△63.6	△31,315	△49.7
II 新株予約権					
1 新株予約権		540	0.9	540	0.9
純資産合計		△38,785	△62.7	△30,775	△48.8
負債・純資産合計		61,803	100.0	63,023	100.0

※記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## ○損益計算書

科 目	期 別	第6期		第7期			
		自:平成21年1月1日		自:平成22年1月1日			
		至:平成21年12月31日		至:平成22年12月31日			
		金額(千円)	百分比	金額(千円)	百分比		
			%		%		
I 売上高		193,162	100.0	246,184	100.0		
II 売上原価		42,728	22.1	154,131	62.6		
売上総利益		150,434	77.9	92,053	37.4		
III 販売費及び一般管理費		168,068	87.0	85,173	34.6		
営業利益又は営業損失(△)		△17,634	△9.1	6,880	2.8		
IV 営業外収益							
受取利息及び配当金		19		8			
為替差益		-		70			
その他		446	466	0.2	2,301	2,380	1.0
V 営業外費用							
支払利息		1,429		1,070			
その他		273	1,703	0.9	-	1,070	0.4
経常利益又は経常損失(△)		△18,871	△9.8	8,190	3.3		
VI 特別損失							
投資有価証券評価損		11,089		-			
減損損失		1,882		-			
商品評価損		66	13,038	6.7	-	-	
税引前当期純利益又は純損失(△)		△31,909	△16.5	8,190	3.3		
法人税、住民税及び事業税		180	0.1	180	0.1		
当期純利益又は純損失(△)		△32,089	△16.6	8,010	3.3		

※記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## ○株主資本変動計算書

前事業年度(自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)

項目	株主資本				新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
		資本準備金	その他利益剰余金			
			繰越利益剰余金			
平成20年12月31日残高	38,760	10,560	△ 56,556	△ 7,236	540	△ 6,696
事業年度中の変動額						
当期純損失	—	—	△ 32,089	△ 32,089	—	△ 32,089
株主資本以外の項目の当期変動額	—	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計	—	—	△ 32,089	△ 32,089	—	△ 32,089
平成21年12月31日残高	38,760	10,560	△ 88,645	△ 39,325	540	△ 38,785

当事業年度(自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)

項目	株主資本				新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
		資本準備金	その他利益剰余金			
			繰越利益剰余金			
平成21年12月31日残高	38,760	10,560	△ 88,645	△ 39,325	540	△ 38,785
事業年度中の変動額						
当期純利益	—	—	8,010	8,010	—	8,010
株主資本以外の項目の当期変動額	—	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計	—	—	8,010	8,010	—	8,010
平成22年12月31日残高	38,760	10,560	△ 80,635	△ 31,315	540	△ 30,775

※記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## ○キャッシュ・フロー計算書

区分	第6期		第7期	
	自:平成21年1月1日		自:平成22年1月1日	
	至:平成21年12月31日		至:平成22年12月31日	
	金額(千円)		金額(千円)	
I 営業活動によるキャッシュ・フロー				
1 税引前当期純利益又は純損失(△)		△ 31,909		8,190
2 減価償却費		1,934		807
3 投資有価証券評価損		11,089		—
4 減損損失		1,882		—
5 受取利息及び受取配当金		△ 19		△ 8
6 支払利息		1,429		1,070
7 売上債権の増減額(△は増加)		9,118		△ 14,207
8 棚卸資産の増減額(△は増加)		—		△ 321
9 仕入債務の増減額(△は減少)		2,548		6,999
10 為替差損益(△は益)		—		△ 70
11 未払費用の増減額(△は減少)		1,226		△ 594
12 未払金の増減額(△は減少)		△ 49		3,441
13 その他の増減額(△は減少)		△ 5,562		△ 136
小計		△ 8,311		5,169
14 利息及び配当金の受取額		19		8
15 利息の支払額		△ 1,429		△ 1,070
16 法人税等の支払額		△ 180		△ 179
営業活動によるキャッシュ・フロー		△ 9,902		3,928
II 投資活動によるキャッシュ・フロー				
1 保証金の増加による支出		—		△ 261
2 保険料積立金		△ 2,110		3,892
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,110		3,631
III 財務活動によるキャッシュ・フロー				
1 短期借入金の純増減額(△は減少)		5,129		△ 5,129
2 長期借入れによる収入		20,000		17,000
3 長期借入金の返済による支出		△ 18,660		△ 30,665
財務活動によるキャッシュ・フロー		6,469		△ 18,794
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額		442		70
V 現金及び現金同等物の増減額		△ 5,100		△ 11,163
VI 現金及び現金同等物の期首残高		30,799		25,698
VII 現金及び現金同等物の期末残高		25,698		14,535

※記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## ○注記

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

- ① 有価証券の評価方法及び評価基準  
 その他有価証券  
 ・時価のないもの 移動平均法による原価法
- ② 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
 ・商品 個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)
- ③ 固定資産の減価償却の方法  
 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法(5年から10年)  
 無形固定資産(リース資産を除く) 定額法  
 リース資産  
 ・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、  
 リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前の  
 リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
- ④ その他計算書類作成のための基本となる重要な事項  
 消費税等の会計処理方法 税抜方式

### 2. 貸借対照表に関する注記

- (1)減価償却累計額  
 有形固定資産の減価償却累計額 8,729千円

### 3. 株主資本等変動計算書に関する注記

- (1)当事業年度末日における発行済株式の数 普通株式 31,400株  
 (2)当事業年度末日における自己株式の数 無

### 4. 関連当事者との取引に関する注記

属性	会社等の名称又は氏名	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
主要株主役員	斉藤 勲	代表取締役	直接被所有30.8	債務被保証	当社銀行借入に対する債務被保証	17,000	—	—

(注) 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりません。

### 5. 1株当たり情報に関する注記

- (1)1株当たり純資産額 △997円31銭  
 (2)1株当たり当期純利益

項目\期別	第7期
	平成22年1月1日～平成22年12月31日
期中平均株式数	31,400株
1株当たり当期純利益	255円11銭

### 6. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はございません。

## 10. 会社概要・沿革



### ○会社概要

会社名	株式会社 iSERVE
英語名	iSERVE Corporation
設立	平成16年12月1日
資本金	3,876万円
代表者	代表取締役 斉藤勲
役員	取締役 谷口守俊（社外）、 取締役 武内寿憲（社外）
許可等	有料職業紹介業許可番号 13-ユ-300599 特定労働者派遣事業許可番号 特 13-312924 古物商（事務機器商）
取引銀行	三井住友銀行 三田通支店 みずほ銀行 麻布支店 りそな銀行 麻布支店 さわやか信用金庫 本店
主な取引先	EMC ジャパン株式会社 ネットアップ株式会社 NetApp Inc. シスコシステムズ合同会社 ブロードコミュニケーションシステムズ株式会社 ヴィエムウェア株式会社 デル株式会社 ネットワンシステムズ株式会社 株式会社ネットワールド 株式会社シマンテック 株式会社データクラフトジャパン ソフトバンク・テクノロジー株式会社 株式会社JALインフォテック 兼松エレクトロニクス株式会社 川崎重工業株式会社 鴻巣花き株式会社
参加団体	PMI日本支部（法人会員） 東京商工会議所（会員番号 C2059509）
所在地	〒108-0073 東京都港区三田4 丁目7-19 ハタビル5階
TEL	03-6420-3234
FAX	03-6420-3235
ホームページ	<a href="http://www.iserve.jp">http://www.iserve.jp</a>
E-mail	info@iserve.jp

## ○沿革

<b>2004</b> 平成16年	<b>12月</b> 設立、東京都港区に本店登記
<b>2005</b> 平成17年	<b>6月</b> 有料職業紹介業の許可を取得  <b>7月</b> 営業開始  <b>7月</b> EMCジャパン（株）とプロフェッショナル・サービスに関する業務委託基本契約を締結  <b>7月</b> ネットアップ（株）とプロフェッショナル・サービスに関する業務委託基本契約を締結  <b>10月</b> 東京商工会議所に入会
<b>2006</b> 平成18年	<b>5月</b> 特定労働者派遣事業を申請
<b>2007</b> 平成19年	<b>7月</b> 一般労働者派遣事業の許可を取得  <b>10月</b> イコールロジック株式会社（現デル株式会社）と販売代理店契約を締結  <b>10月</b> ヴィエムウェア株式会社と業務委託基本契約を締結  <b>12月</b> 株式会社iSERVEに社名を変更
<b>2008</b> 平成20年	<b>1月</b> ピアソンVUEおよびJJSのテスト配信センターを開設  <b>3月</b> シマンテック株式会社とプロフェッショナル・サービスに関する業務委託基本契約を締結  <b>8月</b> レッドハット株式会社と業務委託基本契約を締結  <b>9月</b> ネットワンシステムズ株式会社とエンジニアリング業務支援に関する業務委託基本契約を締結  <b>10月</b> レッドハット株式会社とトレーニング販売パートナー契約を締結
<b>2009</b> 平成21年	<b>1月</b> 日本証券業協会が主催する「グリーンシート」市場へ株式を公開  <b>2月</b> プロケード コミュニケーションズ システムズ社とプロフェッショナル・サービスに関する業務委託基本契約を締結  <b>3月</b> シスコシステムズ合同会社とプロフェッショナル・サービスに関する業務委託基本契約を締結  <b>4月</b> ヴィエムウェア株式会社とVAC契約およびプロフェッショナル・サービスに関する業務委託基本契約を締結  <b>12月</b> シマンテック株式会社と教育パートナー契約を締結
<b>2010</b> 平成22年	<b>9月</b> プライバシーマークを取得